



**DATA**  
スマートゲイトIIプラス 階段用  
階段上に設置可能で、危険な側に開かない片開きドアのタイプ。赤ちゃんをしっかりとガードし、パパ・ママの移動もスムーズ。ロックカバー付きで、誤開閉を防止できる。

## SPOT.3 階段・玄関



玄関はスッキリと。階段には開閉式のベビーゲートを設置。  
階段や段差のある玄関はとても危険なので、ベビーゲートをつけてしまおう。必ず、階段上に設置できる専用の開閉式ベビーゲートを使用すること。ロックをかけるのも忘れず。また、玄関のドアには上下2箇所に鍵がついているケースが多いが、2歳頃になると、下の鍵に手が届くようになる。必ず上の鍵をかけるようにしましょう。傘などの玄関に置きがちな荷物も、必ず赤ちゃんの手が届かないところに片付けておこう。

赤ちゃん  
目線で

# おうちの中はホントに安全!? 危険スポットを見直そう!

1歳~4歳の乳幼児の死因のトップは、不慮の事故。しかも、その半数以上が家庭内で起きているという。そんな悲劇から我が子を守るためには、家の中の安全対策が欠かせない。さあ、ここはパパの出番。自宅の危険スポットを今すぐ見直そう。

Illustration >> HIRANONSA Text >> FUKA SASAHARA

## SPOT.4 キッチン

ベビーゲートでガード!  
電化製品のコードにも注意

キッチンには危険がたくさん。食器棚や冷蔵庫は開閉できないようロックする。刃物や先の尖ったもの、洗剤や掃除グッズは出しっぱなしにしないなど、パパも協力して徹底しよう。見落としがちなのが、炊飯器などのコード。赤ちゃんが垂れ下がるコードを引っ張り、熱くなった電化製品が顔を直撃...という恐ろしい事故も起こりうる。間取りが許すなら、ベビーゲートで入れないようガードしておくのが安心だ。



**DATA**  
おくたけアース woody Lサイズ  
子供の安全を守りつつも、お部屋のインテリアにしっかり馴染むウッドゲート。置くだけの簡単設置なので楽に持ち運びができ、部屋の壁を傷つけない心配もない。また、取り外しが簡単な接続パーツを採用しており、最小75cm~最大178cmまでの幅に対応することができる。

商品情報提供および  
掲載商品の問い合わせ先:  
日本育児 www.nihonikuji.co.jp  
☎06-6251-7420



## SPOT.5 リビング・ベランダ

台は置かず、角はカバー、開閉できるものはロック

家具の角やドアのちょうつがいをカバーする。出入り口には専用のロックをつける。コンセントにはキャップをする。これらは、安全対策の基本だ。また、床にはできるだけ物を置かないことが原則。危険なものはもちろん、ティッシュ(口に詰める)、紙類や洗濯物(踏んで滑る)、ビニール袋(被って窒息する)、ペン類などにも注意したい。怖いのが、ベランダからの転落事故。ベランダへの進入を防ぐため、サッシに取り付けられるタイプのゲートの設置がおすすめだ。



**DATA**  
サッシゲイト  
サッシに取り付けられるうえ、取り付けたままで網戸やサッシの開閉が可能な優れたもの。ベランダの出入り口に加え、室内での使用も可能。上下のダブルロックに加えロックカバーもついているので安心だ。



## SPOT.2 寝室

ベッドからの転落に注意!  
寝室は努めてシンプルに

まず気をつけたいのが、ベッドからの転落。ベッドフェンスを設置するなど対策をしておこう。タオル、電化製品のコードなど、首に絡まったり顔が埋もれたりする恐れのあるものは置かないこと。コンセントの差し込み口にキャップをすることも忘れずに。タンスの引き出しは開閉時に指を挟んだりしないよう、ロックをかけておこう。また、軽めの衣装ケースは赤ちゃんがつかまり立ちをしたときに倒れる危険性があるので、しまっておいたほうが安心だ。



**DATA**  
らくらくとおせんぼII (S) (M) (L)  
設置したまま高さ調節が可能のため大人もまたぎやすく、出入りの多いお風呂場や洗面所にも最適。ワンタッチ式ボールを伸縮させるだけで簡単に取り付けられる。メッシュ素材で見通しが良いから、子供も安心。



**DATA**  
ベッドフェンスSG  
ガード部分に入ったソフトなクッションが、赤ちゃんの安眠をサポート。使わない時は倒しておくこともできるので、わずらわしくない。また、ワイドサイズのベッドにも対応可能なため、子供が成長してからも長く使える。

大人とはまったく異なる  
赤ちゃんの目線でもう一度  
家の中をチェックしよう!

赤ちゃんとの生活が始まったら、早めにとやっておきたいのが、住空間の見直し。家の中には思わぬところに危険が潜んでいる。安全対策の鉄則は、危険なものは赤ちゃんの手の届かないところに片づけること、そして、危険な場所には鍵をかけ、赤ちゃんが立ち入らないようにすること。それが難しい場合は、ベビーゲートなどのセーフティグッズを活用しよう。

ハイハイや「ずりばい」(※お腹を床につけたまま前進するハイハイ)をするようになった赤ちゃんは、行動範囲が一気に広がる。火や刃物を使うキッチンや段差のある階段や玄関は、ベビーゲートなどを活用してガードしてしまおう。つかまり立ちやつたい歩きが始まったら、手の届く高さやぐつと上がるので、さらに注意が必要だ。テーブルクロスや電源コードなど垂れ下がるものは机上に置かず、インテリアは最小限に抑えよう。

赤ちゃんは、引き出しやドアなど開閉できるものにも興味津々。指を挟むと非常に危険なので、市販のガードやベビーロックでしっかり防ぎたい。

安全対策の方法は、家のつくりや家具のタイプにもよるので、最初はその家庭も試行錯誤のはず。余裕を持って赤ちゃんの健やかな成長を守るためにも、早めの対策をおすすめする。